



シンポジウム

学校インターンシップ の可能性

高校生の探究的学習における
大学生の支援を中心に

2/11 日

13:00～16:00

東京大学 本郷キャンパス
福武ホール・ラーニングシアター

※ 参加無料 オンライン配信も行います

主催 東京大学大学院教育学研究科・教育学部

共催 自由の森学園中学校・高等学校
東京大学教育学部附属中等教育学校

お申し込み

お問い合わせ



QRコード
をご利用
ください

✉ toshi-a@g.ecc.u-tokyo.ac.jp

学校インターンシップの可能性

高校生の探究的学習における 大学生の支援を中心に

開会にあたって 勝野 正章 東京大学大学院 教育学研究科長

山本 義春 東京大学教育学部 附属中等教育学校長（教育学研究科教授）

報告 1

自由の森学園
「東北と復興」
スタディツアー

勅使川原 きなり（高3）
服部 樹（高2）
鈴木 雅大（教育学部3年）
内田 一樹 教諭

阪神淡路大震災から30年、東日本大震災から13年、そして能登半島地震…地震列島に住む私たちにとって「震災」「復興」は決して他人事ではない。石巻を中心に行ったスタディツアーを通して、被害の爪痕や当事者の生の声に触れて考えたこととは。

地球規模で環境問題を考える視点と、日々の暮らしの中で自らの行動を捉え直すことと。その両者を結ぶ学びをいかに深めてゆくのか。今年度は青森県六ヶ所村を訪ねるなど、エネルギー問題を中心にアプローチして。

鯉淵 伊吹（高2）
矢部 空翔（高2）
小波津 義嵩（教育学研究科D3）
藤原 敏 教諭

報告 2

自由の森学園
「環境学」
スタディツアー

報告 3

自由の森学園
「韓国講座」
スタディツアー

小賀坂 小春（高2）
山崎 詩珠（高2）
木村 朱里（教育学研究科M2）
藤原 敏 教諭

90年代の「日韓歴史教師の会」での出逢いをきっかけに、四半世紀にわたって続けられてきた、日韓の高校生の相互訪問と交流。この間にはW杯共同開催や韓流ブーム、そしてネットを賑わす韓国ヘイトなど小さな歴史のうねりが。今年度の受講生は何を感じたのか。

中高6か年の探究的な学びの集大成として1年半をかけて取り組まれる卒業研究。今年度提出された中から2名が各自の研究内容を報告。そのテーマ決めにおける東京大学の院生の2年前のサポートの実態に、宮内教諭が生徒アンケートから迫る。

野澤 萬次郎（高3）
新聞 升子（高3）
宮内 貴圭 教諭

報告 4

附属中等教育学校
「卒業研究」

指定討論 小玉 重夫 東京大学大学院 教育学研究科教授

まとめ 菅間 正道 自由の森学園高等学校長

閉会にあたって 藤江 康彦 東京大学 教職課程委員会委員長（教育学研究科教授）

オンライン参加のIDや会場案内は、申込者にメールでお知らせします